

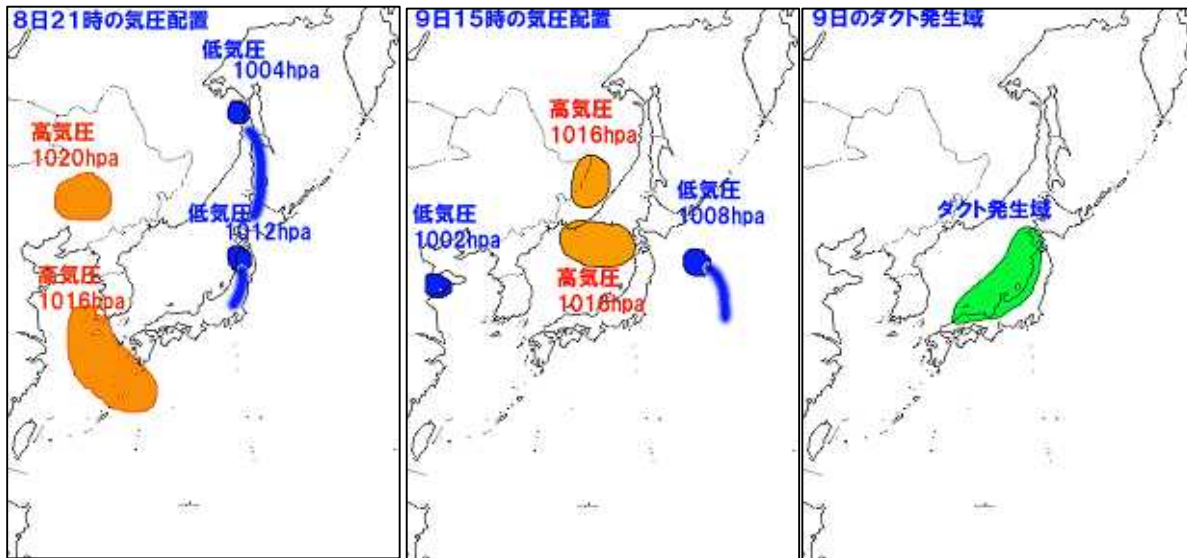
やっと日本海も高気圧に覆われ日本海ダクトオ - プン!

2000年 5月 9日 JG0TEV 中村 豊

1. 気象解析

8日に北日本を低気圧が通過したあと、9日は日本海に移動性高気圧が現われて、9エリアから8エリアまでの間でダクトによるオ - プンを観測しました。

9日の日本付近は、地上天気図ではオホ - ツク海からの高気圧に覆われる形となりましたが、上空では本州の南岸に高気圧の中心が解析されました。このため、9日の日中に日本海に移動した高気圧の勢力は強いものではなく、強力なダクトが広範囲にわたって形成されることは無かったようです。



2. 主な移動運用交信結果

9日の移動運用交信結果

時間	相手局	相手局運用地	レポ - ト	備考
18:55	JE9QAU	石川県石川郡	51(55)	
20:50	JH9EFG	富山県新湊市	59(59)	
21:13	JE9VJZ	富山県氷見市	59(59)	

< 移動運用地/運用設備 >

移動運用地/新潟県長岡市移動

運用設備 /KENWOOD TM-455/10W/430MHzFM/自作 K1FO 22エレ2列1段

上記のほかに、バンド内ワッチ状況および各局からの情報により...

4 ~ 8エリア間でダクトによるオ - プン(またはオ - プン状態)があったことを確認しました。

(長岡市移動運用地から鳥取県・大山のレピ - タ - はRS58で受信できました。)

(9エリアの局が8エリアの局と交信されていることを確認しました。)

3. 考察

2000年シ - ズンはダクトの発生しにくい環境が春先から続いています。

例年の5月のダクト発生率は約50%近くで、2日に1日の確率でダクトが発生するのですが、

今年は気象変化が異常でダクトも発生しにくくなっています。

9日は数少ないダクト発生チャンスとなったようです。

今回のダクト発生のポイントとして、

高気圧の接近、通過により気圧が上昇したこと

日本付近が負渦度の場となって高気圧性の気流となっていたこと

天気の回復により朝、日中、夕方以降の気温変化が明瞭になったこと

(移動運用地の気温変化 17:30/21 18:00/18 18:30/14 19:00/12 と2.5時間で
9 も低下)などがいえます。

<表2 地上天気図に見る気圧変化>

気圧変化(hpa)	8日21時	9日21時	前日比
日本海北部(津軽海峡付近)	1012	1018	6
日本海中部(能登沖・佐渡沖)	1012	1016	4

<表2 気温変化・日較差>

気温変化 ()	9日最低 (21-9時)	9日最高 (0-15時)	10日最 (21-9時)	日較差
秋田市	10.5	17.1	9.1	8
新潟市	13.8	18.6	11.5	7.1
金沢市	13.4	23.1	13.2	9.9
松江市	10.7	25.2	14.3	10.9